

第7回「泉大津市オリウム随筆賞」

【泉大津市長賞】

一致団結

前野杏・泉大津市

私は今、中学一年生です。このオリウム随筆賞をきっかけに「布」の思い出を考えていました。そして頭の中に浮かんだのが五年生の運動会で取りくんだソーラン節のときに五年生全員で着た黒色のTシャツのことでした。

私が小学五年生のときの運動会はソーラン節。正直いって体力がなく運動は得意ではありませんでした。だから五年生の運動会でソーラン節をするのがとても憂うつでした。それでも頑張って練習しようと思いました。

一日目の練習はまずダンスの順番を覚えるところから始まりました。二日目、三日目と本番に向けて、立つ位置を覚えたり、かけ声の練習を夏の暑い太陽が照りつけるなか毎日のように練習していました。とても暑くて、「頭が痛いので保健室に行ってきます」と体調がよくない子がたくさん出てきて運動会の練習を休んでいました。私は体調不良にならないように「でも頑張らなあかん」と思いながら毎日練習をしていました。

私はソーラン節だけでなく、足の速い子が選ばれるリレーの練習も頑張っていました。運動は好きではないけど私は学年で三番目の足の速さなので毎年必ずリレーの選手になって運動会で走っていました。男女混合リレーなので私はほかの子に負けないように、チームの子とバトンの練習をしていました。

リレーの練習はとても楽しい。でもやっぱりソーラン節の練習はとてもつらかったです。何週間目かの練習の日でした。「本番ではみんなはだしてやるから、今日からの練習は、はだしてやるぞ」と先生が言いました。みんなは「えーっ」と嫌がっていました。みんなで石拾いをして、その日からはだしの練習がはじまりました。歩きたびに「いたっ」と言いました。石拾いをして小石や砂などが、ひざや手にくいこんでとても痛かったです。「はっ」「やー」と大きな声を出して毎日練習をがんばりました。

ある日、五年生と六年生との合同練習で、おどるダンスの見せあいがありました。やっぱり六年生の組み立てもありました。六年生の組み立てを見て「上にあんなに乗っているのに、痛いのががまんできてすごいな。」と思いました。

五年生がソーラン節を見せた後、先生が五年生に集合をかけました。「六年生を見てどうやった？」みんなが「すごかった」とか、「かっこ良かった」と言いました。「六年も足痛いはずやのに痛いとか言っていないかったやろ。五年、もっと気ひきしめていかなあかんぞ」とその日怒られました。

その数日後、五年生での集会がありました。そこで配られたのが黒色のTシャツでした。

「みんなこれ着て一致団結しよ」と言われました。みんなは、「オオー」と声をそろえまして。この時に配られた黒Tシャツのおかげでみんなの気持がひきしまり、次の練習に気合が入りました。

本番当日、運動会はたくさんの人でにぎわっていました。まず私が出たのはリレー。私がバトンをもらうときには五組中の三番目。バトンをもらい必死に走り、気づけば二番目。そのまま次の子にわたして結果は二位。とてもうれしかったです。

お昼休みするとき、五年生女子が集まり、黒Tシャツを着て写真を撮りました。みんなががんばるなと気合を入れられました。次の番になったとき、先生からの言葉がありました。「みんな今までがんばってきたんだから、最後のこの演技が一番思い出になるくらいやってな」と言われました。はだしになり、みんなで気合を入れるように背中をたたきあいました。

ソーラン節の曲に合わせて、大きな声で「ドッコイショー、ドッコイショー」とみんなが今までになくぐらいの声を出してやりました。

たった四分間の演技がとても一瞬のように感じました。演技が終わり、みんなで元いた場所に来た時、みんなやり切った顔をしていて、黒Tシャツは、ドロドロに汚れていました。そして言いました。「この黒Tシャツのおかげでみんな団結力がめっちゃ上がってすごく楽しかった」と。

私はこの時から五年生の時にみんなを着た黒Tシャツが忘れられません。この出来事が私の頭の中に残っている「布」の最高の思い出です。